

長野県植物研究会の展望

一 会員のつづやき

大塚 孝一 *

長野県植物研究会は 1967 年に、28 名の会員で発足した。現在、40 周年が過ぎ会員も 250 余名となっている。その間、会として長野県の植物相の解明につとめ、長野県植物誌編纂委員会を組織し、30 年目の 1997 年に、待望の「長野県植物誌」が刊行された。その後、主だった会員が県事業の「長野県版レッドデータブック」の作成に関与したりしたが、最近では会としての目標を見失った感がある。今後は、研究会としての目標を立て、研究会の組織と活動内容の充実、若手の人材育成をはかり、長野県植物の保護・保全に向けた取り組みが重要と考える。

取り組みたいこととして、①信州大学標本庫 SHIN の充実・確固とした存続への要望、②長野県の植物相のさらなる解明と CD 資料集を使った解析、③長野県植物誌の改訂あるいは総目録のとりまとめ (50 周年への目標) などをあげたい。

研究会の事務や運営については、事務局や編集委員長に負担がかかりすぎていて、組織的な運営ができていないといった現状があることから、組織の充実を図るため、幹事会を手弁当で随時開催し、年間活動計画の検討や例会の実施等について、協議しながら進めてはどうか。平成 20 年 3 月に開催した「40 周年記念大会」に関連して、幹事会を開いたなど、すでにその取り組みは始まっているといえる。編集委員会については、実態のあるものとして運用し、会誌の資質向上等に努める。また、会員の現状把握や勧誘を行い、会費の納入促進と寄付の受け入れを考えたかどうか。

研究会会則にある活動内容は、総会及び大会を年 1 回、例会を年数回、年 1 回会誌を発行することとなっており、大会において総会を行うとある。しかし、現状は例会は夏・秋の年 2 回開催 (土日の実施

で 4 回としている)、年 1 回会誌を発行、総会は例会に付随している。このため、平成 20 年からは大会を行うことを提案したい。幸い、20 年夏の例会は大塚が当番となっているので、窓口として面倒をみさせていただくことで、実施していきたいと考えている (以後の大会についても)。

大会の内容は総会及び一般講演と特別講演 (当面、手弁当) とし、大会の会場は松本・長野市内など、時期は 6 月上旬～中旬、日程は土曜日の午後 1 時に大会、翌日例会 (観察会等) を行うようにすればどうかと考える。

なお、例会の運営と担当は、会誌 39 号に、7 地区で順繰りに年 2 回開催するとなっている。回数や大会の開催等さらに検討されると良いと思う。会誌 39 号には、以下のようになっている。

2008 年夏 長野地区 (伊藤静夫・大塚孝一・尾関雅章)

2008 年秋 上田・千曲・小県地区 (池上睦美・川上美保子) + 佐久地区 (中山洸・田中光枝)

2009 年夏 木曽地区 (楯誠治・蛭間啓)

2009 年秋 松本・南安曇地区 (横内文人・佐藤利幸・島野光司)

2010 年夏 大町・北安曇地区 (千葉悟志・橋渡勝也)

2010 年秋 岡谷・諏訪地区 (小口好久・名取陽・坂口竣弥)

2011 年夏 伊那・下伊那地区 (堤久・小林正明・竹重聡)

2011 年秋 長野地区 (伊藤静夫・大塚孝一・尾関雅章)

長野県植物研究会が、100 周年、150 周年と続けられたら素晴らしいと思う。

* 大塚 孝一 〒380-0952 長野県長野市宮沖 199-1